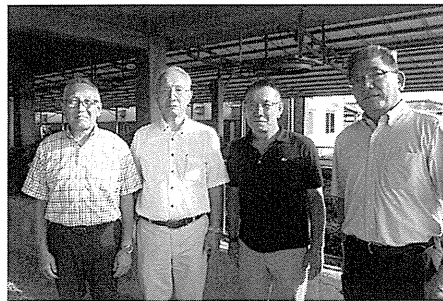


### 石垣牛流通協議会が現地調査、肉牛出荷増頭計画など確認

石垣牛流通協議会(植村光一郎会長、右写真左から2人目)はこのほど、総会の議事上で上がっていた出荷増頭の進捗状況を確認するため、現地調査を実施。調査には植村会長、笹英典副会長ら5人が参加した。八重山諸島の石垣島と黒島で家畜市場、繁殖農家と肥育農家の調査を実施し、さらに関係者との意見交換が行われた。

子牛市場では、黒島家畜市場に145頭、石垣島の八重山家畜市場に379頭が上場され、活況を呈していた。繁殖農家は島での肥育が活発になっていることにより、自分たちが生産した子牛の評価が明確になることを期待し、また肥育農家は肉牛増頭計画に基づき、着実な子牛導入を行っており、活気に満ちあふれていた。

八重山地区の気候は本土と比べると地理的には南に位置するが、海風を受け気温は穏やかで、陽光は強いが比較的過ごしやすい。島全体が一年中緑にあふれ、牧草は潤沢で牛に必要な粗飼料は十分賄えており、肥育素牛は牧草を十分に与えられ、丈夫で健康に育つ。子牛市場には多くの有名銘柄牛産地の購買者が訪れており、その銘柄牛の素牛になっている。石垣牛はこの素晴らしい環境の中で、子牛から肥育を行い、肉牛ま



で仕上げられた牛であり、最高の肉質を誇っている。しかし、これまでは島を訪れる観光客やインバウンド向けの供給量を見越して生産が行われていたため、肥育牛の増頭が一向に進まなかった経緯がある。

これを受け、石垣牛流通協議会では第3回総会で、石垣牛肥育部会から増頭を確約されたのを受け、今回の現地調査が行われた。牛舎の問題や食肉処理能力など、課題はまだまだ散在しているものの、実際に現地を訪れたことで、生産現場の意欲や活気は十分に確認できたようだ。

なお、意見交換会には石垣市の中山義隆市長も参加。「子牛という経営資源の流失が少しでも緩和されることは喜ばしいことだ」と今回の試みに対して期待の言葉を述べた。さらに「石垣牛だけでなく、ぜひ農水産物を含めた石垣島フェアを行ってもらいたい」と強調。植村会長は「今回の調査を受け、石垣牛のおいしさだけでなく、育った環境や農家のこだわり、牛が健康に育った理由を消費者や生活者に伝えることで、石垣牛のファンを増やしていきたい」と意欲を語った。